



HSMニュース

Focus Training Seminarに参加してみた！

毎年恒例のFTS (Focus Training Seminar) に当社社員が参加してきました。
このセミナーはアメリカのQI (Qualified Individual) であるGallagher Marine Systemが主催する緊急対応訓練であり、USCGやCaliforniaが求めているTable Top Exerciseの要件を満たしたセミナーで、米国に入港する船舶の船主(管理会社)は参加証明書保持が必須となっているため、当社も毎年出席しております。



例年通り当社は神戸会場で出席させていただきました。
基本要件の概要、実際に起こった事故を元に行うケーススタディ、前回のセミナー以降に変更になった規制の周知、ゲストスピーカーを招いての講演でとても充実した内容だったとのことです。
因みに、今年のゲストスピーカーはWest Alaska のChadux Network (油流出対応組織) とMTI (リスク管理・危機対応企業) でした。



座学で疲れた頃に携帯で読み込んで行うクイズ形式の復習は正答率、回答時間を競うもので、眠気も飛ぶ工夫も嬉しい配慮であり、また、「そのクイズでは毎年上位を獲得されている某管理会社様の知識量には感心するばかりでした」とのことでした。当社も見習わないといけませんね...

RitCH、文書管理機能はじめたってよ

皆さんは、業務に関わるたくさんの文書や記録類などの書類管理はどの様にされていますか？
ISMのマニュアルや手順書、チェックリスト、各船の図面、日々増えていく本船からの各種定期報告や随時提出されるレポート類。。。マニュアルや手順書などの改定手続きや改廃履歴の管理。。。

“文書が、あちこちに散らばっている” “改訂しても、伝わったか分からない” “レポート提出を、つい忘れる”
“確認・承認が、メールに埋もれる”

RitCHの「Document Manager (文書管理・レポート管理)」が、こんな“あるある”を、まとめて解消します！

重要文書の保管管理・船陸間の文書共有・各種報告業務を、一元管理。
重要文書の改廃申請及び承認フロー、レポートの回覧や進捗確認等にも対応しており、誰が・いつ・何を・どう扱ったか、をシステム内で確認・一元管理できるようになります。

膨大で煩雑な文書管理をRitCHを活用して **スッキリ** 解決しましょう！

サービス提供会社：株式会社HSM

<https://www.hsmjp.co.jp/ritch>





このコーナーでは散歩の似合わない男「桑村」がその重い腰ならぬ重い体を上げ、日生やその周辺を散歩！魅力的なスポット・お店などを紹介していきます。

最近はお出張続きの「くわ散歩」。今回もお出張先で見つけた、おすすめのお店をご紹介します。

くわ散歩 第26回:鶏肉王国 大分県の佐伯市で出会った「居酒屋とり富」

皆さんこんにちは！くわ散歩では、弊社周辺や近隣、また出張先などのオススメのお店や、まだ知られていない穴場など、様々なスポットを紹介いたします。

今回は、実は私にとって初めての大大出張。初めて訪れる土地ということもあり、仕事はもちろんですが、どんなお店に出会えるのかも密かな楽しみでした。



今回訪れたのは、大分県佐伯市にある、居酒屋「とり富」さん（大分県佐伯市駅前1丁目4-6）。佐伯駅からも近く、宿泊したホテルルートインの真向かいという、とても便利な場所にあります。この日は佐伯へ前入り。「夕食はどこにしようかな」とホテルを出ると、すぐ目の前にこちらのお店がありました。初めての大大出張ということもあり、「大分といえば、やっぱり『とり』だな」と思い、迷わずお邪魔することにしました。



まずは赤鶏のタタキをいただきましたが・・・うまい！一口目から鶏肉王国の洗礼を受けました。表面は香ばしく、中はふんわり。噛むほどに鶏の美味しさが口いっぱいに広がります。普段居酒屋でいただく鶏のたたきも美味しいのですが、こちらは旨味の濃さが一段上。シンプルな料理だからこそ、その違いをしっかりと感じられました。頭に「おかわり」という言葉がよぎりましたが、この後の料理のために、なんとか踏みとどまりました。



厨房に目を向けると、何やら激しく燃え上がる炎が見え、期待が高まります。そして運ばれてきたのは…赤鶏のもも焼き。炭の香ばしい香りがふわっと広がり、一気に食欲をかき立てられます。一口食べると、炭火ならではの香ばしさと鶏の旨味が絶妙。噛むほどに味わいが広がり、こちらも箸が止まりません。お酒が進む料理ばかりで困りますね。。



唐揚げ大好き私としては“揚げた鶏肉”は外せません。この日は唐揚げにするかチキン南蛮にするか相当悩みましたが・・・チキン南蛮を選択。ジューシーな鶏肉に甘酢の酸味とたっぷりのタルタルソースがよく合い、期待以上の美味しさでした。個人的にチキン南蛮はお店によって当たり外れがある印象なのですが、こちらは文句なしの当たりでした。

ただやはり唐揚げも気になりましたね…(とり天は食べました)



珍しく地元佐伯の日本酒飲み比べセットを頼んでみました



何を食べても美味しいので、お腹いっぱいでしたが、親子丼も頼んでしまいました。



気付いたらジョッキを持っていました。不思議です。

出張はもちろん仕事がメインですが、こうした美味しいお店との出会いもまた楽しみの一つです。

今回は鶏料理を存分に堪能しましたが、不思議と飽きることはなく、それぞれ違った美味しさを楽しむことができました。…でも、唐揚げはやっぱり気になります。

それでは、次回の「くわ散歩」でまたお会いしましょう！

この日は結構食べ過ぎましたが、後悔はしていません！





ピックアップ!

ここでは、私共が目にして気になった記事やニュース等を紹介させていただきます。
海運に関する事や海運に関係なくても興味がわく様な内容の物を色々紹介していきたいと思います!

こんにちは!

今日も締切ギリギリで焦ってはいますが、酒に逃げずに珍しくシラフで書いております。先程髪を切りに行き、「バシッと刈り上げてきました。刈り上げ過ぎたのかもしれませんが。」

ということで、だいぶ頭が軽くなったので、軽やかに書いていきたいと思います。今回も、非常に刺さった共感できる記事をピックアップしてみたいと思います。

「競合の「商品」を見るな。お客さんの「予算」を見ろ」

弊社でも新たなサービスを思いついたり、新たな事業を開始してみたりと色々とチャレンジを試みてはいますが、中々そう簡単にはうまくいきません。世の中厳しいですね。。

今回の記事はそんな新規事業を考える際の、少し角度を変えた「ひとつのものの見方」、ということで共感できる部分もあり面白かったので紹介したいと思います。

=====

「どのみち使われるお金」に注目する

僕は年間に100社以上のコンサルと、あとは、表では言っちゃいけないグローバル企業の研修のようなものを行ったりしています。

そこではよく「新規事業はどこから考えればいいのか?」という質問があがるのですが、この「新規事業の組み立て方」にはいくつか型があるので、そのうちの一つを今日は共有させていただきたいと思います。

通常のビジネスをまわす時、人は「競合の商品に勝とう」と考え、そして新しいビジネスを考える時、多くの人は「まだ世の中に存在しないものを作ろう」とします。

もちろん、それも一つの方法なのですが、新規事業を考える時に、もう一つの見方があります。

それは、「人がすでに使っているが、比較検討されていない『予算』の流れを見る」ということです。

たとえば、電気代や携帯電話料金、インターネット回線などがそうです。

僕らは毎月お金を払っていますが、そのたびに真剣に比較検討しているわけではありません。

気づけば契約が続いていて、気づけば毎月引き落とされている。

こういう「慣習的支出」とか「固定支出」といった、「生活の中に組み込まれていて、毎回の意思決定を必要としない支出」が世の中にはある。

新規事業を考える時の一つとして、この「どのみち使われるお金(どのみち使われる予算)」に注目することが大事です。

なぜなら、人は新しい出費には慎重ですが、すでに使っているお金の使い道を変えることには、比較的前向きだからです。

敵は「切り替えが面倒」だけ。

「市場の正体」は「見えている商品」とは違うことが多い

具体例を出します。

後輩が風船屋さんをやっているんですね。

僕らがお酒を呑む時は、「その席にいる経営者の事業をブラッシュアップすること」を酒の肴にするわけですが、その流れで、後輩の風船屋の事業を見た時に、まず最初に目をつけたのは「イベントのロビーに並べられる『祝い花』に使われている予算」でした。

友人がイベントを開催する時や、お店がオープンする時、舞台の初日を迎える時。昔から「お花を贈る」という文化があります。でも、よく考えてみると、主催者は本当に「花」が欲しいのか?

お客さんは本当に「花」を贈りたいのか? もちろんロビーに花が並ぶと綺麗です。

次ページへ続く

ただ、本質はそこではない。

あれは、「お祝いしたい」「応援していることを伝えたい」「関係性を示したい」という気持ちの表現です。

つまり、あれは『花市場』と見せかけて、実は『お祝い表明市場』なんです。

この視点に立つと、見え方が変わります。

勝負する相手は花屋さんではありません。

考えるべきは、「お祝いの気持ちを表明するための予算」です。

そこで、風船屋の後輩と共に「お祝い用のバルーンスタンド」を作りました。ここでポイントだったのは、ただ花をバルーンに置き換えたわけではないことです。贈られたバルーンスタンドの売上の一部がイベント主催者に入る仕組みにしました。

イベント主催者からすると、

「同じお祝いをもらうなら、お花よりもバルーンの方が嬉しい」

という状況が生まれます。

なぜなら、会場が華やかになるだけでなく、収益にもつながるから。

結果として、主催者自身が積極的にバルーンスタンドを紹介してくれるようになる。

ここで、「商品を買いたい側が宣伝するのではなく、商品を受け取る側が宣伝する」という構造ができあがった。

この事業の成功は、バルーンが花より優れていたからではなく、「お祝い表明」という既存の支出を再設計したからです。

新しいビジネスという、つい「新しい商品」を探してしまいます。

でも、本当に見るべきなのは商品ではなく、お金の流れなのかもしれません。

人が毎月払っているお金。毎年払っているお金。何十年も続いている慣習的な支出。

そこには、まだ誰も再設計していない市場がたくさん眠っています。

そして、その市場の正体は、見えている商品とは違うことが多い。

花市場と見せかけて、祝意表明市場だったように。

もしかすると、ビジネスのヒントは、商品ではなく、人が何にお金を使っているのかを観察した先にあるのかもしれない。

「商品を見るな。予算を見ろ」

という話でございました。

=====

ということで、如何でしたでしょうか？

確かに、「今までなかった新しいことをやろう」とか「誰もやってないことをやろう」ということばかり考え過ぎていたのかもしれない。考えたところでそう簡単に思いつきませんよね...

今回の記事の様に、ちょっと視点を変えたら意外とビジネスのヒントが見つかるかもしれませんね。

実際、記事にあったように「新たな支出」に対してはハードルは高くなるので、すでにある「慣習的な支出」に目をむけてそこを「再設計する」、というのは理にかなっている様に思いました。

見方を少し変えるだけでそこにヒントが潜んでいるのかもしれない。

私自身も少し見方を変えて、あえて刈り上げないで刈り下げしてみる、というのもよいかもしれないですね。

？？？

海運基礎知識 「ニアミスについて」

今回は、「ニアミス(ヒヤリハット)」について取り上げてみたいと思います。

“ニアミス・ヒヤリハット”という言葉は、我々海運業界に限らず幅広い分野で用いられています。

航空機の世界や医療現場、はたまた日常生活においても“ニアミス”という言葉を使うことがありますよね。

今回は、特に我々船舶において使うニアミスについて少し触れてみたいと思います。

「ニアミス(ヒヤリハット)」て何？

- ・ニアミスとは、「もう一步のところで事故になりそうだった危険な状態」のことを指します。
「事故にならなかったから大丈夫」ではありません。船舶では、重大事故の一步手前で「ヒヤッとした」「ハッとした」という出来事が日々発生しています。このような事象を Near-miss(ニアミス)、日本では一般的にヒヤリハットと呼びます。そして、それらの状況報告を“Near-miss report”といい、船舶管理業務においても度々登場します。
- ・Near-miss report(ニアミスレポート／ヒヤリハット報告)とは、けが・設備損傷・油濁・貨物損傷などの実害は出なかったものの、一步間違えれば事故につながっていた出来事や状態を報告し、再発防止に役立てる仕組みです。
海運業界では、こうした“事故の手前”の情報を集めて分析することが、安全運航と汚染防止のための重要な取り組みとされています。

なぜニアミス/ヒヤリハット報告がそこまで大切なのか？

- ・それは、重大事故の多くが突然起こるのではなく、小さな異常、見落とし、慣れ、思い込み、手順逸脱の積み重ねの先に起こるからです。ニアミスは、いわば事故の“予告信号”です。
- ・「事故ではない」ため見過ごされがちですが、そう思って見過ごされた出来事の中に、次の重大事故の芽が潜んでいます。その様なことから、ニアミスレポート／ヒヤリハット報告は、重大事故を未然に防ぐための貴重な情報となるので大変重要視されています。

報告を書く際のポイントは？

- ・ニアミスレポート／ヒヤリハット報告を書く際に大切なのは、長く立派に書くことではありません。
ポイントは、いつ・どこで・何が起きたか、なぜ危ないと思ったか、どんな対応をしたか、再発防止のために何が必要かを、できるだけ具体的に残すことです。
- ・特に有効なのは、「人が悪い」で終わらせず、手順、設備、配置、コミュニケーション、教育、疲労、作業環境など、背景要因まで見ていくことです。
- ・また、「報告した人が損をしない」雰囲気があることが重要です。報告をためらわせる最大の要因は、「自分のミスと思われるのでは」「責められるのでは」という不安です。本来、ヒヤリハット報告の目的は犯人探しではなく、事故予防です。ニアミスレポート／ヒヤリハット報告を促すうえで重要なのは、“Just Culture(公正な安全文化)”です。
- ・「報告する文化」が安全をつくとされています。ニアミスレポートが多い船は危険なのではなく、積極的に報告できる安全文化が根付いている船とも言えます。一方で、ニアミスレポートが極端に少ない場合は、「問題がない」のではなく、報告されていないだけという可能性もあります。

以上、非常に簡単ではありましたが、「ニアミス(ヒヤリハット)」について簡単に説明させて頂きました。

ニアミスレポート／ヒヤリハット報告は、単なる“報告書作成業務”ではありません。1件の報告が、同じ船での再発防止につながるだけでなく、他船への水平展開、手順見直し、教育改善、設備改良へとつながることもあります。

事故が起きてから学ぶのではなく、事故になる前に学ぶ。それがヒヤリハット報告の価値です。

その一件が、次の安全を守る大切な一步になります。

以上